

東地域まちづくり協議会だより

第7号

ラジオ体操を通して家庭・学校・地域の結びつきをより強く！ 第2回東地域夏季ふれあいラジオ体操に400名参加

東地域まちづくり協議会会長 大嶋 充

「第2回東地域夏季ラジオ体操」は、ひみまつり翌日の8月5日（日）、昨年同様「比美乃江運動公園」で実施いたしました。今年は、異常の暑さということで、健康面での心配をしていたのですが、新調した「東地域夏季ふれあいラジオ体操」の幕の下で子どもから大人まで昨年よりも多い約400名の方々に参加していただき、盛大に行うことができ心から感謝申し上げます。

大森副会長が進行役を務め、本協議会会長大嶋が開会の挨拶をし、本会顧問の藪田県議から激励の言葉をいただき、昨年同様ひみまつり会場の清掃活動を行い、茶山公伸さんの指揮でラジオ体操、本会福祉いきいき健康部副部長（リトルひがし代表）恵比寿泰子さんの進行で〇×クイズを行い、中波副会長の閉会の挨拶で滞りなく終了することができました。



本行事を実施するにあたり、東地域まちづくり協議会の役員の皆様には、それぞれの立場で絶大なご支援・ご協力を賜りましたことに対して重ねて感謝申し上げます。この行事を通して、東地域に住む人々の一体感が確認され、標題の家庭・学校・地域の結びつきが一層強くなったのではないのでしょうか。また、ラジオ体操を通じた健康管理ということで、今後とも是非続けていきたいと思っておりますので、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、先に、あいさつ特集号を配布させていただきました。比美乃江小学校では、児童の標語を全戸に配布していただき、学校・家庭はもちろん、地域ぐるみで取り組んでいるところです。これからも、東地域まちづくり協議会を構成している、自治振興委員会、社会福祉協議会、老人会、防犯協会、比美乃江小学校や北部中学校地域安全協議会（朝の交通指導）などの組織と連携し、より強いネットワークを構築し、あいさつ運動を推進していきたいと思っておりますので、ご理解のほど宜しく願い申し上げます。

このようなあいさつ運動に粘り強く取り組むことにより、地域の連帯感をより強め、思いやりの心を醸成することができ、豊かな人間性を育み、明るく安全で住みよい東地域の創造につながることを願っております。

【あいさつではじまり、あいさつでおわる1日！】

【あいさつは、東地域の合い（愛）言葉！】

【あいさつは、いつでも・どこでも・だれにでも！】

【あかるく、いつも、さきに、つづけよう！】

ひみ景観塾 東地域ぶらりさんぽ

— 漁村のいま・むかし —

8月19日（日）、標記の行事が親子約30名、市職員、本協議会の役員の皆さん、参加者の選考などのお世話をしていただきました比美乃江小学校の谷内口校長・川淵教頭先生も参加してくださり盛大に実施することができました。

市漁業文化交流センターで京都市立芸術大学 藤本英子教授から、景観塾の楽しみ方についてお話を聞き、本会ふれあい交流部副部長（市つままの会元会長）鏡正子さんの案内で、魚取社や古い倉庫、旧街道筋など海沿いの名所を歩き、地元の歴史や文化を学び、その魅力を身体で感じ取ることができました。また、本会総務部副部長（市地域起こし協力隊）の野口朋寿さんが、魚の革を材料にしたブローチづくりのワークショップも開きました。

これは、東地域の未来・将来を考えるためには、今と昔について学び、それを踏まえて将来のビジョンを考え、デザインすることは大切なことであると考えているからです。本行事は、氷見市都市計画課との共催で実施されたものです。参加した児童は、「いつも何気なく見ている地域の建物などを見て素晴らしいと思った」と感想を述べ、故郷である地域について改めて見つめ直す機会となったようです。東地域の将来について思いを巡らすことができ、大変有意義な催しであったと思います。



[まちあるきに先立ち藤本教授からの説明]

「冷蔵庫を開けて、あれがない、これがないというのは二流の料理人であり、あるもので料理するのが一流の料理人である」ということを聞いたことがあります。地域づくりも、「あれがない、これがない」というのではなく、地域のよさを引き出し、伸ばし、創造していこうとする姿勢が大切なのではないのでしょうか。



[鏡さんの説明を聞く参加者]



[魚の革で作ったブローチの作品]

富山県総合防災訓練に大勢の皆さんに参加していただき、有難うございました。